ジェトロ・海外市場開拓課
2023 年 3 月 20 日作成

見本市「IMTEX2023」に見るインド工作機械業界の最新トレンド

2023 年 1 月にインド・ベンガルールで開催された国際工作機械・技術展 IMTEX 2023（International Machine Tool and Manufacturing Technology Exhibition）にて、主催者であるインド工作機械工業会（Indian Machine Tool Manufacturer's Association: IMTMA）および出展者にヒアリングを実施し、インドの工作機械市場を通してインド製造業の動向を調査し、海外展開を検討する日本の中小企業向けに情報をまとめた。

＜4 年ぶりの開催となった IMTEX＞



写真 1：IMTEX 会場の様子（ジェトロ撮影）

IMTEX は、今回が第 20 回目の開催となる切削関連の工作機械・工具を対象とした国際見本市。1969 年にムンバイで第 1 回が開催され、2007 年より現在のベンガルールに会場を移し開催されている 50 年以上の歴史を持つ南西・東南アジアで最大級の工作機械関連見本市である。板金成形を主とする IMTEX Forming（鍛圧機械展）と隔年開催で、IMTEX（切削形工作機械展）は奇数年に、IMTEX Forming は偶数年に開催されてきた。コロナ禍により 2021 年はオンラインにて IMTEX Connect として開催され、リアル展としては 2019 年以来 4 年ぶりの開催となった。会場は 5 つのホールを使用し、77,000 ㎡の展示面積が確保された。

Copyright © 2023 Japan External Trade Organization (JETRO). All rights reserved.

会期	：	2023 年 1 月 19 日～2023 年 1 月 25 日
開催地	：	インド／ベンガルール
会場	：	Bangalore International Exhibition Centre (BIEC)
主催	：	インド工作機械工業会 （Indian Machine Tool Manufacturers' Association：IMTMA）
出展対象品目	：	プレス、特殊用途プレス、板金切断機、板金ブランク、パンチングマシン、板金成形機、板金加工セル・システム、ダイカスト、鍛造、押出、スピニング・フローフォーミング、圧延、ワイヤー成形機、バー、セクション・チューブ加工機、ハイドロフォーミング、鋳造・鋳造、熱処理・硬化、ボルト製造用機械　等
来場者数	：	9 万 6 千人超
出展社数	：	991 社

今回は、下記 3 つをテーマとしたパビリオン構成で展示が行われ、革新的な技術や製品のお披露目、最新の情報が提供された。（IMTMA 公式ウェブサイト）

- TOOLTECH：工作機械アクセサリー、計測機器、CAD/CAM 切削工具、ツーリングシステム、トレンドなどを紹介するイベントとして IMTEX と同時開催
- i2 ACADEMIA PAVILION：インドの学術・研究機関が金属加工分野における研究開発能力を世界にアピールする機会の提供
- Digital Manufacturing：最新トレンドとしてアディティブ・マニュファクチャリング（AM／積層造形）とインダストリー 4.0 を紹介

＜インドの工作機械業界の伸長でインドビジネス注力傾向へ＞

インドは 2023 年に人口で中国を超えるといわれており、またそれに伴う経済成長を背景に、同国の工作機器市場は年率 30%近く成長するとの見方がある。2021 年時点でインド国内の工作機械生産額は約 930 億ルピー（日本円で約 1,560 億円）と世界第 11 位、消費額は約 1,579 億ルピー（日本円で約 2,653 億円）と、世界第 8 位との報告もある（出展：the World Machine Tool Survey by Garder Intelligence 2021）。さらに近年の米中対立に加えロシアのウクライナ侵攻等によるチャイナリスクの顕在化により、事業拡大エリアやサプライチェーンの見直しの動きが日本企業に広がりつつある。こうしたビジネス環境の変化が後押しし、以前に増してインドへの進出・インドでのビジネス拡大に対し日本企業の関心が高まっているといえる。

このようにインドビジネスに追い風が吹く中開催された IMTEX2023 において、日本企業では、ファナック、DMG 森精機、ヤマザキマザック等工作機械メーカーを始め、工作機械の製造に係る部品・周辺装置のメーカー等、約 30 社が参加した。また日本工作機械工業会

Copyright © 2023 Japan External Trade Organization (JETRO). All rights reserved.

（Japan Machine Tool Builders Association：JMTBA）が広報ブースを設置。グローバル企業では米国の MAG や韓国のディーエヌ・ソリューションズ（DN Solutions、旧斗山マシンツールズ）などが参加したほか、ドイツ、韓国、スペイン、台湾、米国などが国・地域ブースを設けた。中国企業については、会期直前まで実施されていたゼロコロナ政策の影響のためか出展はほとんどみられなかった。

写真 2 ：国・地域ブースの様子（ジェトロ撮影）







＜注目される EV 分野、エレクトロニクス・半導体分野＞

本見本市に出展していた日本企業の中で、インド市場への期待に対する聞き取りで多く聞かれたのは、①EV（電気自動車）・EV 二輪・三輪車（電気二輪車、電気三輪車）、②エレクトロニクス・半導体の 2 分野についてであった。インドでは深刻な大気汚染を背景に、中央政府主導で法整備を含め EV の普及を積極的に進めており、すでにインド大手自動車メーカーMahindra＆Mahindra や TATA Motors、Ola Electronic Mobility が製品化、販売を開始している。さらにスズキのインド子会社マルチ・スズキが EV 工場の新設を進めるなど、EV 関連需要が高まりをみせている。ある大手工作機械メーカーによると、高度な加工技術を有する日本企業の技術で EV 関連需要を狙えるのでは、との意見も聞かれた。また、エレクトロニクス・半導体分野においては、台湾の電子機器受託製造（EMS）大手の富士康科技集団（フォックスコン）がインドへ工場を建設し iPhone 製造を本格化、鴻海（台湾）が 25 年に半導体工場の稼働を予定している。

日本の工作機械メーカーのインド進出はすでに進んでおり、インド国内でもその地位を確立している。日本のある大手工作機械メーカーによると、主要コンポーネントは日本から輸入しているものもあるが多くを現地調達、全世界共通モデルをインド工場で生産しているが、日本製と比べても遜色ないレベルの製造が可能だという。また、今回ヒアリングしたほとんどの日本企業が、インド市場のパイの大きさをにらみ日本企業のみならずインドローカル企業を主要ターゲットとしているとの回答であった。競合については、中国・韓国メーカーやその他グローバル企業もいるが、インドの工作機械メーカーと競合する場合もあり、サイクル転の多さといったスペック面やアフターサービスで差別化を図っているとい

Copyright © 2023 Japan External Trade Organization (JETRO). All rights reserved.

う日本企業もいた。



写真 3：日本の工作機械メーカーブースの様子（ジェトロ撮影）

（参考）

・ジェトロ地域・分析レポート：特集：アジア大洋州で加速する電気自動車の普及の取り組み （2022 年 3 月 25 日付）

・ジェトロ地域・分析レポート：iPhone 製造が本格化（インド） （2022 年 12 月 22 日付）

＜インド工作機械メーカーの動向＞

本見本市に出展したある日本企業によると、輸入依存解消のためインド国内での製造を奨励する「メーク・イン・インディア」政策の効果もあり、近年インド製造業のレベルは上がってきているという。今回の視察において、筆者も大規模な展示と地場企業の技術力の高さに圧倒された。

インド企業の中でも、BFW、JYOTY、ACE などが大規模なブースを設け、ファクトリーオートメーション（FA/自動化）を前面に打ち出した展示を行っていた。彼らインド企業から見て取れる現地の最新トレンドとしては、以下の 3 点が挙げられる。

【インド工作機械メーカーの展示トレンド】

① ファクトリーオートメーション（FA/自動化）による生産ラインの自動化・省人化
② 金属 3D プリンター対応
③ IoT 技術活用による管理効率化・省エネ（スマートマニュファクチュアリング）



写真 4 ：IMTEX 会場の様子（ジェトロ撮影）

Copyright © 2023 Japan External Trade Organization (JETRO). All rights reserved.

本見本市の開催地であるカルナータカ州・ベンガルールは、インドの宇宙開発政策の拠点である国家機関 インド宇宙研究機関（Indian Space Research Organization：ISRO）の本社があり、かつ中央政府・州政府も積極的に支援するスタートアップ企業の集積地、“インドのシリコンバレー”として知られているが、もともとは軍需・重工業の中心地であった。そういった歴史もあり、カルナータカ州政府が主導し、本見本市の主催者であるインド工作機械工業会（IMTMA）がバンガロール市内より北西約 70kmに位置するトゥムクルに、工作機械専用のトゥムクル工作機械工業団地を設立・運営している。同工業団地には、Ace Manufacturing Systems や Jyoti CNC Automation Ltd が拠点を構えるなど、州政府を挙げて工作機械業界を支援する姿勢がうかがえる。

（参考）
・ビジネス短信：ベンガルールで工作機械・技術展 IMTEX2023 が開催（2023 年 2 月 13 日付）
・INDUSTRIAL AUTOMATION：Indian machine tool industry doing well in terms of consumption and production （2023 年 1 月 3 日）
・調査レポート：2022 年度 海外進出日系企業実態調査（アジア・オセアニア編）（2023 年 1 月 26 日公開）

＜日本企業にとってのビジネスチャンス＞
同見本市の視察から見えてきたインド工作機械業界でビジネスチャンスが見込まれる分野は下記の通り。
① EV（電気自動車）・EV 二輪・三輪車（電気二輪車、電気三輪車）など高い技術力が求められる分野
② エレクトロニクス・半導体など需要が高まることが期待できる分野
③ 防衛・航空宇宙・鉄道など高い加工技術が求められる分野

日本の大手工作機械メーカーは、現地生産に加え上記分野でのインド国内の販路拡大を進めていくことが予想される。
一方、既進出日本企業から挙げられた、実際に抱える課題と考察は以下。

- 安価な人件費：他先進諸国と比べ人件費が安価であるため、機械を購入しても投資回収に 6～7 年かかること。結果、自動化のスピードが遅いという。だがこの点については、人件費が年率 8～9%上昇していることから、自動化のスピードは今後上がる可能性がある。
- 品質保証レベル：今回の視察で工作機械本体の性能が高いことはうかがえたが、工作機械から生成された部品等製品の品質保証のレベルを上げる必要があるという。高度な計測機器やセンシング技術を有する日本企業にとってはこの分野もビジネ

Copyright © 2023 Japan External Trade Organization (JETRO). All rights reserved.

スチャンスであるといえ、実際にこれら需要を先取りすべく、日本のセンサーメーカーや計測機器メーカーの出展も見られた。

今回の視察を通して、インド工作機械市場の盛り上がりを肌で感じた。インドへ進出を検討している日本企業は、まずは現地へ足を運び本見本市を視察する等してその勢いを肌で感じてもらいたい。さらには今回の IMTEX2023、来年開催予定の IMTEX Forming2024 への出展から代理店候補や潜在顧客との対話を通じてインド進出・販路開拓のヒントを得てもらいたいと思う。

以上

〇執筆：ジェトロ海外市場開拓課　飯塚南

【レポートの利用についての注意・免責事項】
本レポートは、日本貿易振興機構（ジェトロ）が 2023 年 1 月に入手した情報に基づき作成したものです。掲載した情報は、一般的な情報・解釈がこのとおりであることを保証するものではありません。本レポートはあくまでも参考情報の提供を目的としており、提供した情報の正確性、完全性、目的適合性、最新性及び有用性の確認は、読者の責任と判断で行うものとし、ジェトロは一切の責任を負いません。これは、たとえジェトロが係る損害の可能性を知らされていても同様とします。

【レポートの内容に関するお問い合わせ先】
ジェトロ・ビジネス展開支援課　BDA@jetro.go.jp
（2023 年 4 月 1 日以降はジェトロ・海外展開支援部戦略企画課個別支援班　ODA@jetro.go.jp）

◆「海外発トレンドレポート」読後アンケートにご協力ください◆

本レポートは皆様の海外ビジネスにお役に立ちましたでしょうか？

今後の参考のため、**役立ち度アンケート**にご協力頂けましたら幸いです。

（所要時間：約1分）

Copyright © 2023 Japan External Trade Organization (JETRO). All rights reserved.